



WAKURAI

令和7年度事業計画

社会福祉法人 京都総合福祉協会

京都総合福祉協会

MOTTO

「共生を目指す創造的実践」



VISION (理念)

「共に生きる」社会の実現

MISSION (基本方針)

- ・利用者の人としての尊厳を重んじ、基本的人権を守ります。
- ・地域に根ざした信頼される福祉を構築します。
- ・時代を読み、ニーズを掘り起こして現状の改革に努めます。

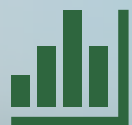
目次



I 協会全体の事業及び経営の重点方針



II 研修



III 事業予算の概要

IV 各事業所の計画

A暮らし（施設入所、診療所、GH）

B通う（生活介護）

C通う（就労継続B型、就労移行）

D児童

E高齢

F居宅

G相談



V 地域における公益的な取組



VI SDGsの取組

I 協会全体の事業及び経営の重点方針

1 組織の活性化と課題への的確な対応

- ・事務局長（局長級）に法人プロパー職員を配置。
- ・事務局課長を新設。組織活性化に向け、DX推進・人財確保・育成等を担当。
- ・組織活性プログラムやストレスチェック結果からわかる法人及び事業所課題の共有
 - 経営推進会議等での課題分析と対応策の提案、それらの事業計画への反映と事業計画の立案方法の見直し、評価方法の確立に向けた改善。

2 人財の安定確保と福祉の担い手作り

- ・年間採用獲得目標人数：20名 **求人之母集団数増を強化**
 - （学 生）FUKUSHI meetsへの参加、大学、福祉専門学校との繋がり
 - （社会人）Indeed Plusの活用、求人サイトによる情報集約・事務効率化
 - （外国人労働者）R6, 2ふれあいの里更生園で開始した取組を発展

- ・**居宅支援の事業存続に向けたヘルパー確保**に集中的に取り組む
- ・**給与改善 処遇改善手当の月例給への積替等**
- ・**社会福祉士等実習生受入の基盤作り**

実習担当者連絡会の立ち上げ、法人内連携実習の実施

3 DX（デジタルトランスフォーメーション）推進計画への着手

- ・「DX推進プロジェクト」の立ち上げ。DX推進を担当する事務局課長を中心に、業務改善に向け、8原則（廃止、削減、容易化、標準化、計画化、同期化、分担検討、機械化）に基づき課題を抽出。
- ・課題抽出と同時に、複数事業所で業務整理やICT活用の試行実施。

（例 入所施設の勤務表作成アプリや音声記録システム導入、LINEワークスなどによる情報共有
→業務効率化により生み出された時間で、特に支援環境の改善（利用者への直接的支援により注力する。）、変則勤務職場の働き方改革、業務過多になっている管理者の業務軽減等を図っていく。）

4 虐待や不適切な支援を発生させない取組

- ・各事業所及び協会の虐待防止委員会の実施 セルフチェックアンケートの実施
- ・高ストレス者発生件数 前年度比1割減を目標（令和6年度は15件）に協会全体の統括安全衛生委員会の活動継続、新採向けの保健師事業所巡回の早期実施や個別相談への対応を継続

5 施設環境の改善

洛西ふれあいの里福祉施設再生事業・第3期工事

更生園：5室の個室と共用の生活空間で構成するユニット整備、自立支援型見守り機器の導入。
療護園：医療的ケアを必要とする利用者向け居室（3人部屋）2室の整備。

6 その他

- ・役員の任期満了に伴う理事、監事、評議員の改選（R7,6）
- ・旧丹後療育センターの地元での活用可能性にかかる検討（2ヵ年度中に一定の方向性を検討。）

Ⅱ 研修

① 職場における新人や後輩を育成する機能の向上

(OJTリーダー育成のための研修、実習体験を含む2・3年目研修の実施など)

② 法人及び事業所の方針や取り組みの改善に向けた手法や技術の向上

(主任級・係長級・管理職研修 令和6年度内容のブラッシュアップなど)

③ 法人の人財育成・キャリアパスの仕組みの改善

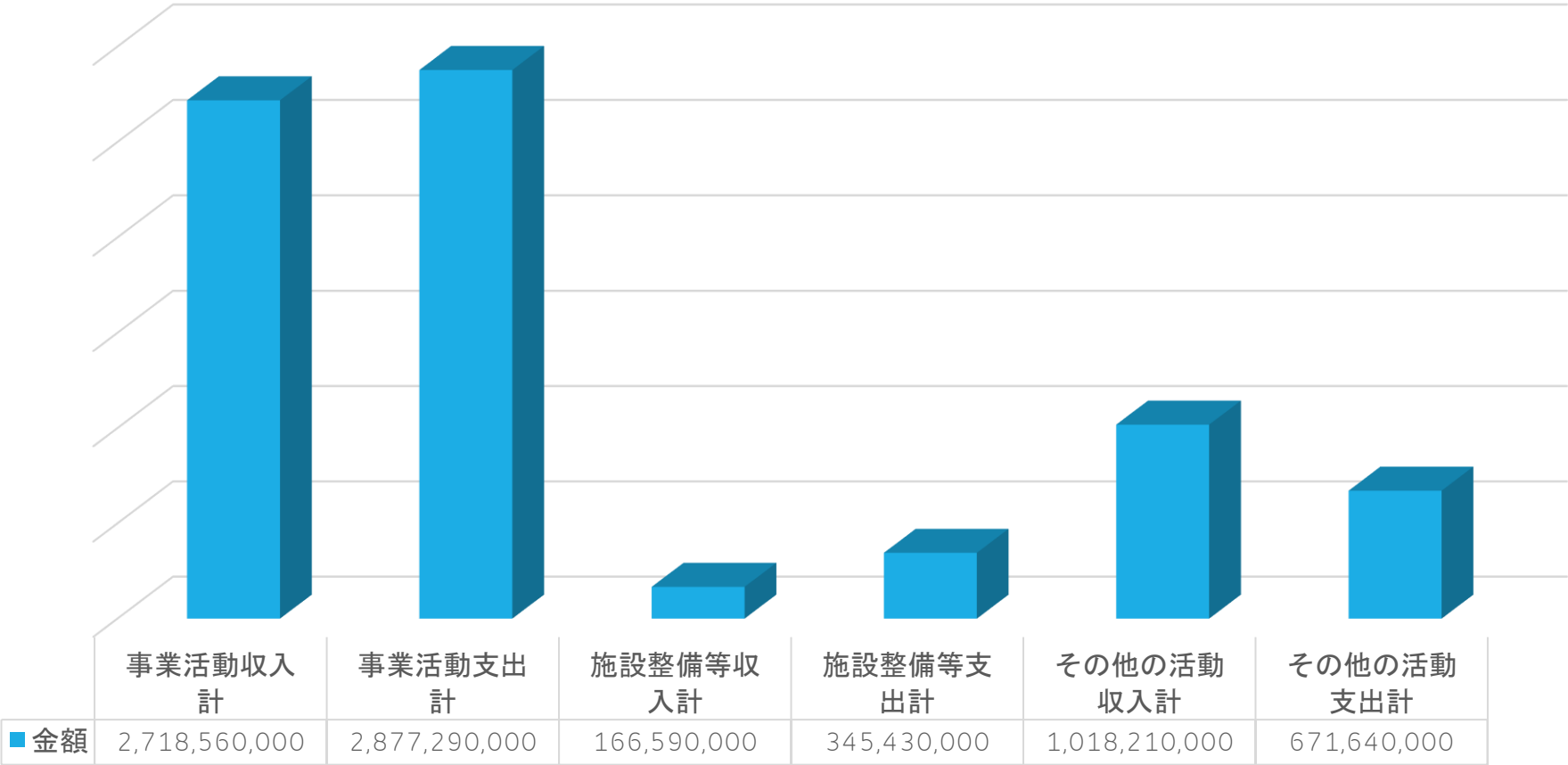


Ⅲ 事業予算の概要

令和7年度 事業予算総額(内部取引の繰入金収支を除く)

【収入】32億3,500万円 (前年度当初予算比 約2,100万円の減額)

【支出】32億3,500万円 (前年度当初予算比 約2,100万円の減額)



【主たる事業予算の内容】

1. 令和6年度介護報酬、障害福祉サービス報酬改定に伴う給付費の増額（事業活動収入）
自立支援給付費収入 （前年度当初予算比） 1億200万円増額
2. 令和6年度福祉・介護職員等处遇改善加算増額による処遇改善及び
令和6年10月施行の最低賃金引上げに伴う人件費の増額（事業活動支出）
人件費支出 （前年度当初予算比） 5,300万円増額
3. 洛西ふれあいの里福祉施設再生事業に係る中間払いに対応するための「建設仮勘定」の計上
（施設整備等収入及び支出）
建設仮勘定収入 （前年度当初予算比）1億6,600万円増額 （事業予算）1億6,600万円
建設仮勘定支出 （前年度当初予算比）1億4,700万円増額 （事業予算）1億6,000万円
4. 各種積立資産の取崩及び積立の実施（その他の活動収入及び支出）
積立資産取崩収入 （前年度当初予算比）1億6,700万円減額 （事業予算）18拠点 3億5,000万円
積立資産支出 （前年度当初予算比） 7,300万円減額 （事業予算）3拠点 300万円
5. DXの推進
固定資産取得支出、賃借料等 （事業予算）700万円

IV 各事業の事業計画（主な内容を中心に）



A暮らす（施設入所・GH）

療護園、更生園、大原野の杜、ふれあいの里診療所、
グループホーム北部、グループホーム西部



B通う（生活介護）

授産園、洛西デイ、すずかけ、コスモス
紫野授産所（菜の花）



C通う 就労継続B型・就労移行

紫野授産所（さくさく工房）、花水木、
桂授産園

D児童



ポッポ、きらきら園、すぎのこ教室

E高齢



通所介護向日葵、居宅介護向日葵

F居宅



鷹峯、檜原

G相談



うきょう、らくさい、就業生活支援センター、
かがやき



A 暮らす(施設入所、グループホーム)

①地域連携推進会議の設置 (R8から義務化)

事業運営の透明性を高め、支援の質の担保・向上につながるよう、地域の関係者を含む外部の目を定期的に、利用者の暮らしの場の施設に入れる取組を開始。

目的

事業所と地域との連携により…

利用者と地域との関係づくり

地域の人への施設等や利用者に関する理解の促進

サービスの透明性・質の確保

利用者の権利擁護

内容

● 施設による会議の開催

- ・ 構成員との情報共有・意見交換

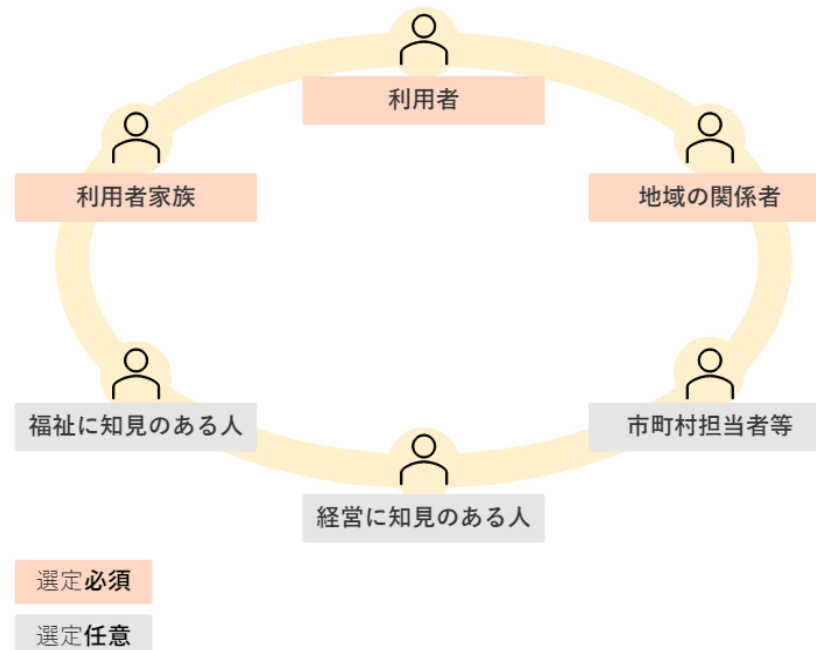
● 構成員による施設訪問

- ・ 職員や利用者との関係づくり
- ・ 事業所の環境や事業運営の確認

※ 会議・施設訪問は、それぞれおおむね1年に1回以上開催します。

会議の構成員

- ・ 会議の構成員は、「利用者」「利用者家族」「地域の関係者」「福祉に知見のある人」「経営に知見のある人」「市町村担当者」などを想定。このうち、「利用者」「利用者家族」「地域の関係者」は必ず選出することが必要。
- ・ 人数は5人程度。



②地域移行及び施設外の日中サービス利用の意向を確認（R8から義務化）



すべての施設入所者に対して、地域生活への移行や日中活動系サービス利用の意向について確認し希望に応じたサービス利用になるよう支援（担当者、確認マニュアル、個別支援計画の作成が必要）。

③施設経営の健全化

療護園ではR6に4名のご利用者が逝去。募集に際し、市から届く事前情報は介護療養型に入所されるような医療的ケアが必要な方が多数を占め、全員を受け入れることは困難。生活介護の給付費収入の低さもあり健全経営と命を守るための職員体制維持とのバランスが大きな課題。

④ふれあいの里診療所における電子カルテの導入と運用（DX推進）

⑤生活環境の改善、施設整備など

- ・医療的ケアに対応しやすい2居室の整備、男性居室4室を4人部屋から3人部屋へ改修（療護園）
- ・5室の個室と共用の生活空間で構成するユニットの整備、自立支援型見守り機器の導入（更生園）
- ・施設の庭スペースの改修 花壇整備と駐車場の拡大（大原野の杜）
- ・勤務表作成アプリの導入・運用及び職員向け連絡の情報共有（更生園・大原野の杜 DX推進）
- ・スマートフォン用勤怠管理システムの運用（GH北部 DX推進）
- ・老朽化ホームの移転検討→市営住宅空き部屋の福祉活用ができた場合は改修工事（GH西部）
一戸建てグループホームの賃貸契約成立の可能性もあり



B 通う（生活介護）

①施設整備など

洛西ふれあいの里福祉施設再生事業第2期工事で完成した

- ・新設浴室の効率的な稼働による入浴希望者への対応。また、天井走行リフト使用による安全確保と職員の腰痛予防に役立てる（洛西デイ）
- ・新設活動棟1階での個別スペース、日中活動場所の確保。また、2階多目的ルームの地域開放や職員研修などでの積極的活用をすすめる（授産園）。



洛西ふれあいの里福祉施設再生事業第3期工事として

- ・職員の事務及び休憩スペースの整備（洛西デイ）。
- ・男性トイレブースの改修、クリーニング1班熱対策垂れ壁設置工事（授産園）。

②利用者の障害特性にあわせた支援の充実

- ・強度行動障害の利用者に対する重度支援の体制を整え（支援者養成研修の受講を継続）、専門性のある個々に適した支援の充実を図る（授産園、洛西デイ、すずかけ、コスモス）。
- ・外部の自閉症支援研修の受講や外部委託の施設コンサルテーションを受け、常勤、非常勤にかかわらず、自閉症支援の専門的知識や技術を習得し支援力の向上を図っていく（授産園、コスモス）。



③利用者アールスペースの設置

新設した授産園多目的ルームや、リニューアルオープンした紫野障害者授産所・さくさく工房内のスペースを活用し、法人内事業所の利用者が創作した作品を披露する機会をより多く創出する。



(授産園利用者、紫野授産所、コスモスの作品から)



C 通う（就労継続支援B型・就労移行支援・就労定着支援）

①就労支援内容の充実

- ・定着してきた清掃作業では、新たに事業所から徒歩圏内で通える西京都病院を訓練先として新たに活用。また、リネン作業では、柴橋商会への施設外就労での時間延長や作業内容の拡大を図る（桂授産園）。
- ・就労B型でのやりがいのある仕事の提供を基本に、より就職を希望された場合には移行支援にステップアップできる段階や切り替えを柔軟に支援する（桂授産園）。
- ・勉強会では職業準備性向上に向けた内容だけではなく、生活についても、例えば、余暇、金銭管理、福祉サービス、障害者権利擁護などを題材にし、就職後も安定した生活が維持できるための知識の提供に力点をおく（花水木）。



②一人ひとりにあった就労支援

利用者の希望や特性を重視した企業マッチングにより、長く働き続けられる就労先を支援。

＜一般就労目標＞ 桂授産園：移行5名、B型1名 / 花水木：2～3名



③施設整備など

R7, 3にリニューアルオープンした「さくさく工房」では、より一層、地域に開かれ・つながる店舗となるような活動に取り組む（紫野授産所）。

<DX推進>

- ・支援記録等の事務効率化を図るための音声入力も可能な新ソフトの導入（紫野授産所）。
- ・職員にスマートフォンを貸与し事務作業や職員間の情報共有を促進（紫野授産所）。
- ・Wi-Fiアクセスポイントの設置（紫野授産所）。
- ・Wi-Fiアクセスポイントの設置、フリーアドレス化（花水木）。



④その他

北区、左京区のコミュニティで地域内の消費が促進され、新たな人や団体とのネットワークの構築を目指し、地域コミュニティの活性化、相互扶助を目指すため、地域通貨の導入を検討する（紫野授産所）。





D 児童

①あおぞら教室（京都市の総合療育事業）の終了

ことばやコミュニケーションの発達に支援の必要な子を対象にしてきたあおぞら教室（市からの委託事業）のR6年度末で終了に伴い、児童発達支援事業（給付費制度）へ移行する（きらきら園）。

②児童発達支援センターとしての地域における「4つの中核機能」の充実

R6年度より求められるようになった「4つの中核機能（①幅広い高度な専門性に基づく発達支援・家族支援機能、②地域の事業所に対するスーパーバイズ・コンサルテーション機能、③地域のインクルージョン推進の中核機能、④地域の発達支援の関する入り口としての相談機能）」を担っていく。

③療育の質の維持・向上

- ・療育終了時に、一人ひとりの様子を丁寧に振り返り、自分たちの支援（関わり）を問い返し、評価・改善点を共有する（ポップ）。
- ・臨床心理士を業務委託で配置し新版K式発達検査を実施し本人や家族支援に活かす（きらきら園）。

④DX推進

「障害児通所支援システムソフト」を導入し、記録や計画書作成、給付費請求を一体的に管理できる仕組みを整える（きらきら園・ポップ）。





E 高齢

①居宅介護支援事業所向日葵の運営の安定化

R6, 4から再開した居宅介護支援事業について、主任介護支援専門員を中心に事業の安定運営を図る。月平均の目標利用者数：62.5件。

②ご利用者・ご家族の満足度向上

個別機能訓練および学習療法について、質的・量的に内容を高め、身体機能の維持、向上をはかる。また、コロナ感染まん延防止のため、少人数でのレクリエーションに限定していたが、今年度は感染対策を講じながら多数の利用者でが楽しめる内容を提供する（通所向日葵）。

③居宅向日葵と通所向日葵の連携強化

再開した居宅向日葵との連携を深め、新たな視点や利用者ニーズを取りれながら組織力向上と利用者獲得につなげていく。





F 居宅

①事業の健全な運営に向けた取組

支援時間数の減少による大幅な減収により事業存続に大きな課題を抱えている（特に檜原居宅）。新規利用者獲得を可能にするためのヘルパー確保や、既存利用者の支援時間増に向けモニタリングでの再確認を実施する。また、R8年度に向けて、2事業所の運営や職員体制などの抜本的見直しを具体に行う。

②ヘルパーの確保

支援者確保に向け、募集ビラの個別配布や、福祉に特化した民間大手求人サイトの活用継続。また、まずは登録ヘルパーになってもらう入口として、ガイドヘルパー養成研修の開催や、無資格者が応募してきた際に介護初任者研修の費用を助成するなどの検討を行う。

③支援報告管理ソフトによるさらなる業務効率化

支援報告ソフト（Vita）の活用を継続し、今後も支援・事務のさらなる業務効率化を考え、機能追加等も検討する。



G 相談

① 質の高い「計画相談」を市内の事業所が実施できるためのサポート

市内相談支援事業所への指導・助言、研修を通じた相談支援専門員のスキル向上（うきょう、らくさい）。

② 就労継続B型事業所を希望する障害のある方のアセスメント

支援学校高等部3年生でB型を希望する生徒を対象に、学校訪問で授業風景の見学や先生からの聞き取りによりアセスメントを行う（就業・生活 市新規委託）。

③ 就労選択支援事業の立ち上げ

B型への通所を希望しており、センターでのアセスメントを希望する障害者に対応できるよう新たに事業所を立ち上げる（就業・生活 10月開始の事業）。

④ 京都市におけるリハビリテーション行政の基本方針に基づく連携

R6, 1に新センターCOCO・てらすが開所。地域リハビリテーション推進センター、こころの健康増進センター、児童福祉センターが一本化整備された基本方針に基づいた連携体制の強化に取り組む（かがやき）。

V 地域における公益的な取組(予定)

- ・ふれあいの里診療所 :近隣福祉事業所へのインフルエンザ等のワクチン接種
医療機関受診が困難な一部の通所利用者の医師意見書・診断書の作成
- ・洛西ふれあいの里の施設 :桂坂自治連合会との共催による「桂坂オータムフェスタ」や、ふれあいの里周辺の他の福祉
法人と協働した「ふれあいの里協力会」による地域住民との交流、福祉の普及啓発活動
- ・洛西デイサービス、大原野の杜 :地域小学校、中学校、高等学校などとの交流学习
- 紫野授産所、向日葵
- ・グループホーム :生活保護受給者の体験利用時の自己負担分家賃の免除
- ・すずかけ :芋ほり観光農園事業
- ・うきょう :障害のある青年たちの学習会や子どもの発達に不安がある保護者のサロン
- ・らくさい :食材支援プロジェクトへの参加
- ・かがやき :市民を対象とした発達障害の方への理解と支援を学ぶための市民研修会
- ・コスモス :ベルマーク回収と近隣小学校への寄付
- ・花水木 :75歳以上の高齢者及びきょうと子育て応援パスポート提示者へミニサイズドリンクの無償提供
- ・紫野授産所 :地域の子ども食堂に焼菓子を無償提供
- ・きらきら園 :市民が子育てについて相談ができる「見学・子育て相談」の実施
大学教授とのコラボレーションで、子育ての不安や悩みをもつ地域の親子対象の「親子あそびの
ひろば」を実施
- ・ポッポ :葵児童館実施の「はなまる子育て相談」にて保護者へのアドバイスや情報提供
- ・向日葵 :地域の各種団体や地域包括支援センターと連携した認知症カフェ、認知症サポーター養成講座の共同開催
- ・北山ふれあいセンター内事業所 :北山ふれあいセンターまつり、防災イベントの運営



VI SDGsの取組



- ・洛西ふれあいの里の施設 桂坂地域のクリーンデイを通じた美化活動
- ・更生園 ペットボトルキャップの仕分け（リサイクル活動）を通じた、NPO法人主催の子ども食堂の取組への協力
- ・すずかけ アルミ缶回収（リサイクル活動）
- ・グループホーム北部 不要食用油の回収を自治会活動への協力
- ・コスモス 不要なタオルや古着を北山ふれあいセンター内で回収し、ウェス（汚れ等をとる布）として再利用
昼食やクッキングで出た食品廃棄物をたい肥化し、畑作業の活動で活用
北山ふれあいセンター内で出たペットボトルやアルミ缶回収（リサイクル活動）
- ・紫野授産所 食品・資材などのロス軽減、レジ袋の削減
商品ロス軽減ができていないか過年度の廃棄量データーと比較
製菓の原材料として「フェアトレード」による材料の仕入れなどに継続的に取り組む
- ・花水木 仕入れ量を工夫しフードロスを削減
ガーデニングチームによるハーブ栽培
葵プロジェクトへの協力
- ・らくさい ふれあい食堂との連携
食材支援プロジェクトとの連携

